

第2章 地域別街づくり構想

1 長野駅善光寺口周辺地域（第3地区・第4地区・第5地区）

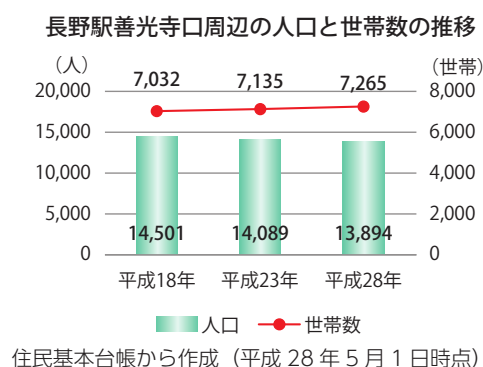
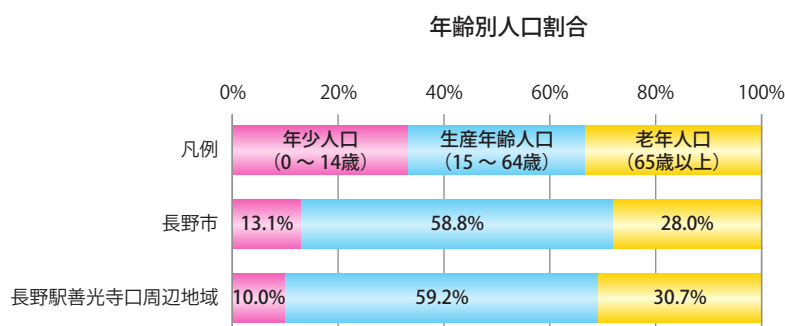
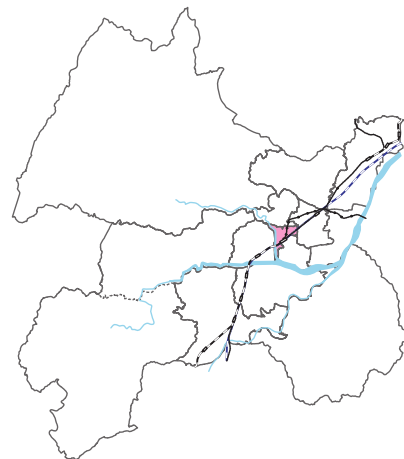
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

北陸新幹線、JR線、しなの鉄道線、長野電鉄線などの主要な鉄道交通のハブ機能を備えた長野駅を中心とした交流の拠点と、県の中核、「県都の顔」としての都市機能が集積する地域である。

広域拠点として、多様で高次の広域的な都市機能（市や長野県に唯一もしくは、北信エリアなど広域生活圏に一つあるような機能）が集積している。

居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、年少人口の割合は比較的低く、老年人口の割合は比較的高い。世帯数は、緩やかな増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

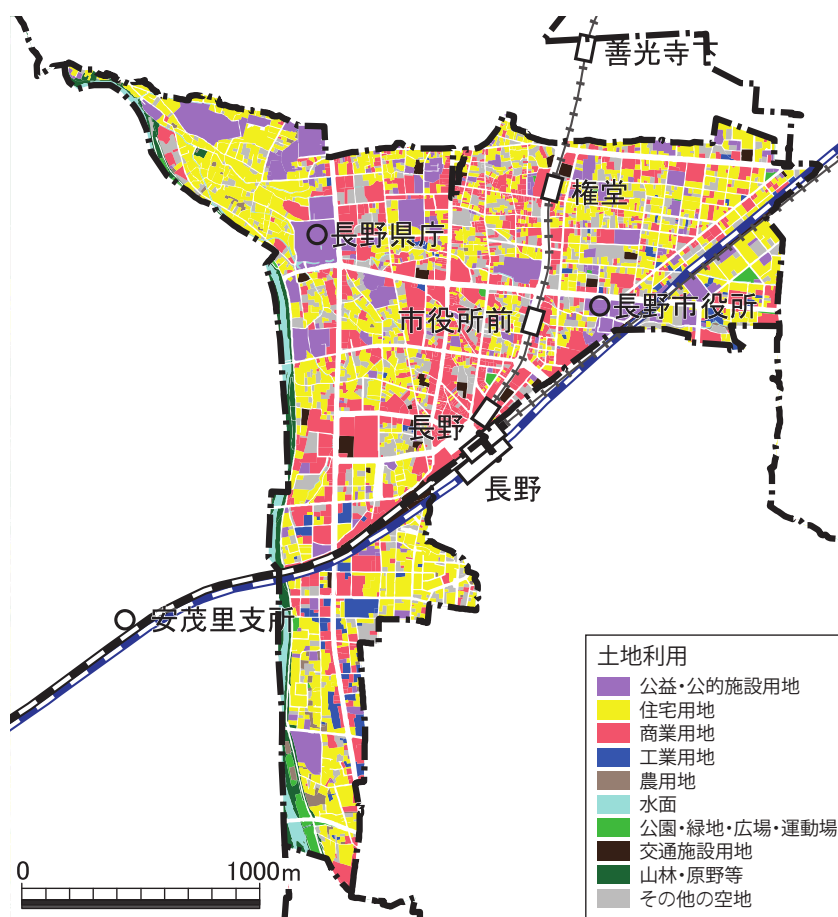
- ・既存市街地の中心部は、大型店の撤退等、商業機能の郊外展開により、商業地として求心力の低下が見られたが、市街地再開発事業等により、新たな都市機能の形成も進んでいる。
- ・北陸新幹線の金沢への延伸などにより、広域拠点としての魅力が増している。

課題

- ▶市街地再開発事業等を核とした新たな都市機能の集積と、既存の都市機能との一体性や連携を確保し、商業活動等の活性化を図るとともに、都市基盤の再構築により、広域拠点として、「県都の顔」にふさわしい中心市街地の再生が必要である。

土地利用

- ・ 県庁や市役所周辺の業務地区と、長野駅や中央通りを中心とした商業地区に区分される。
- ・ 長野駅周辺では、市街地再開発事業等により、土地の高度利用を図っているが、未だ低・未利用地*も多い。
- ・ まちのにぎわいを持続的に支える商業活動等の活性化のために、社会環境の変化などに適切に対応した土地利用が求められている。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

課題

- ▶ 中心市街地のにぎわいと活力の持続のために、生活利便施設などをより充実させ、まちなか居住の促進による住みやすい複合的な土地利用の誘導が必要である。
- ▶ 公共交通と連携したコンパクトな市街地の形成が必要である。

道路・交通

- ・交通セル方式*の実現を目指して、中心市街地内の道路網の整備が行われてきた。
- ・中央通りの石畳化などの高質な都市空間の整備と合わせて、にぎわいを創出する空間としての役割が求められている。
- ・環状道路は完成したものの、補助幹線道路網の未整備箇所が多い。
- ・昔からの路地等も残っており、土地利用が活性化しない区域がある。
- ・長野駅では、「門前回廊」やペDESTリアンデッキ*を含む駅前広場の整備が完了し、長野の玄関口にふさわしい、シンボリックな空間や公共交通の結節機能の拡充がされた。

課題

- ▶未整備の補助幹線道路網や駐車場の整備が必要である。
- ▶中心市街地活性化を支える交通セル方式の実現化が課題である。
- ▶中央通りを軸として、面的に広がる歩いて楽しい歩行者空間の整備が必要である。
- ▶街づくりと一体的な道路の整備が必要である。
- ▶老朽化した東西地下連絡通路や長野電鉄長野駅のコンコースなどの再整備が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・中心市街地では、緑や公園等の憩いの場が少ない。
- ・裾花川から引き込んだ用水路の多くが暗渠*化されている。
- ・観光などの交流人口の増加のために、魅力的な都市環境や景観の整備が求められている。

課題

- ▶中央通り沿いの街並み景観の形成が必要である。
- ▶公園や河川、公共施設が一体となった都市内の快適な環境の形成が必要である。
- ▶水路を活かした潤いのある都市空間の形成が必要である。
- ▶都市のブランド力を高めるため、高質な都市空間の整備が必要である。

防災・安全

- ・中心市街地では、老朽化した木造の建築物が密集したり、耐震化が図られていない建築物もあり、救助、避難、消防活動等に支障がある地区が見られる。

課題

- ▶木造の建築物が密集する地区における建築物の不燃化や、市街地における建築物の耐震化が必要である。



長野びんずる



ながの祇園祭



善光寺花回廊

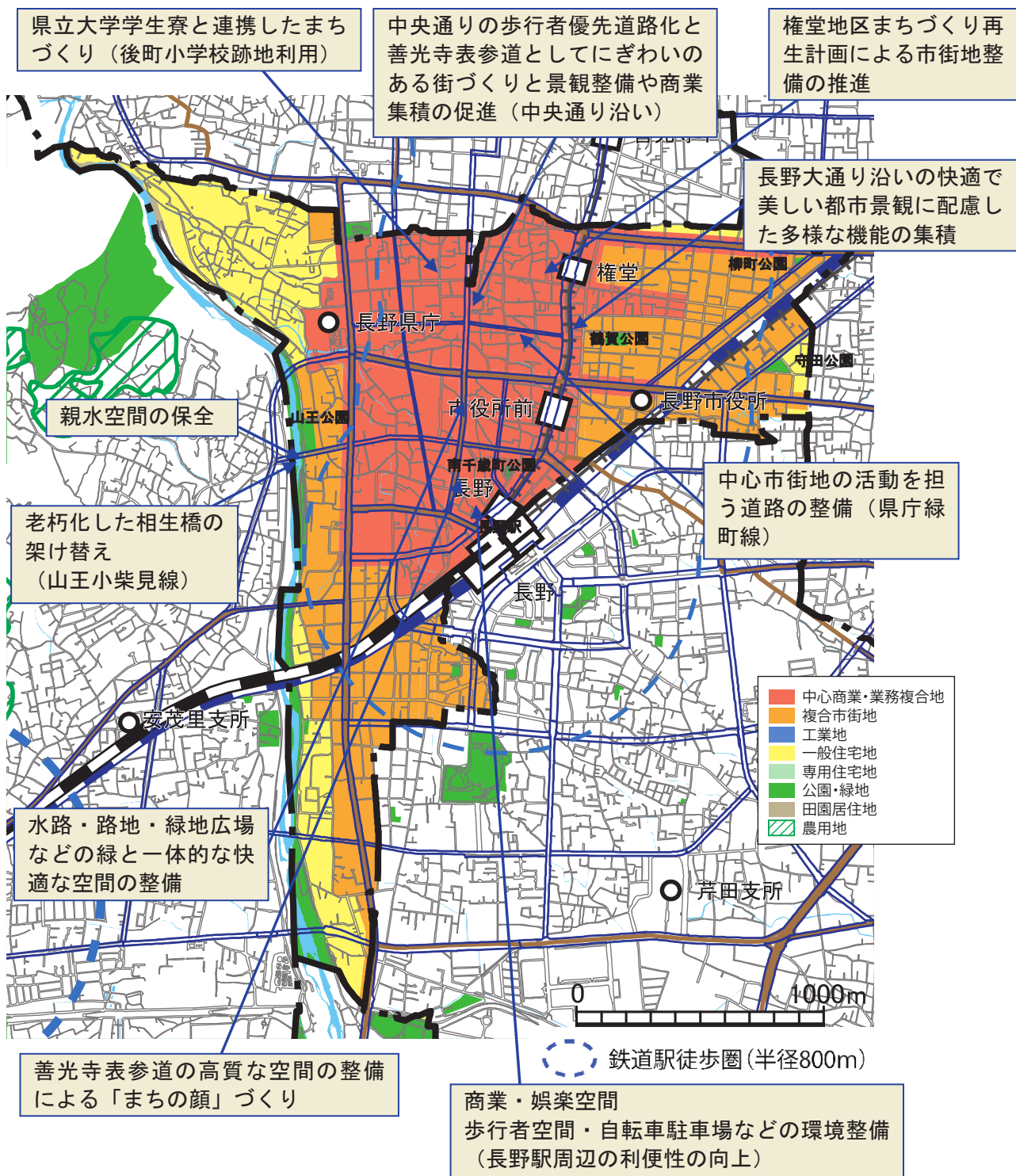


長野駅東口側から中心市街地を望む

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	<p>県都の玄関口として、多くの人を訪れ、交流する場としてふさわしい都市の顔づくりを進めるとともに、各種都市機能の集積及びまちなか居住の促進により広域拠点としての機能の充実を目指す。</p>
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地では、長野のシンボリック空間や、中枢的な機能の集積を活かし、都市機能の充実や各機能の連携により、「県都の顔」となる広域拠点づくりを進める。 ・ にぎやかな都心部を創出するため、商業機能の充実や、まちなか居住を促進するとともに、中央通りを軸に水路、路地、緑地広場などを歩行者優先の道路でネットワーク化し、四季を通じて歩いて楽しい街づくりを推進する。 ・ 地域内の特性に応じた土地利用を図るとともに、歩道や駅などの公共空間のバリアフリー*化、街路樹などの緑による潤いの向上、市街地再開発事業等による市街地の再生により、利便性と快適性を備えた良好な都市空間の形成を推進する。 ・ 商業施設の新たな展開にあわせた、権堂地区の再生計画を進める。 ・ 立地適正化計画*による都市機能誘導区域を定め、広域拠点にふさわしい都市機能の維持・集積を促進する。 ・ 県立大学学生寮を活かした、地域と連携したまちづくりを進める。 ・ 空き家の再利用や、駐車場等の低・未利用地を活用して、都市機能の誘導を図り、拠点性を高める。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央通り沿いの地域では、長野駅から善光寺に至る表参道を軸に、歴史・文化を活かした歩行者優先の賑わいのある街づくりを進め、景観の整備や商業の集積を図る。 ・ 市街地の都市環境を活かし、地域の特性を考慮しながら、利便性や安全性を備えた居住環境の整備などによるまちなか居住の促進を図る。 ・ 長野駅周辺、昭和通り、長野大通りなどの沿道地域では、快適で美しい都市景観を持つ多様な機能が集積する地域として維持・充実を図る。 ・ 権堂地区では、中心市街地のにぎわいの再生に向け、市民との協働によるまちづくり計画を定め、活性化に向けた取組みを推進する。 ・ 市街地再開発事業等と一体的に狭あいな道路の改良を図ることで、広域拠点にふさわしい土地の高度利用や、ストックの更新を誘導する。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街づくりと一体となった中央通りの歩行者優先道路*化や、バス等の公共交通と使いやすい駐車場の整備（交通セル方式環状道路沿道での駐車場の立地と共通駐車券制度導入等）との連携・充実を図る。 ・ 官民が一体となった駐輪場の整備や市街地の回遊性の向上を目指す自転車レーン等のネットワーク化など自転車対策を充実させる。 ・ 中心市街地の活動を担う、安全性や快適性に配慮した道路の整備を図る。 ・ 県庁緑町線の事業化に合わせた沿道地域の一体的な整備を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水路や路地空間を活かし、歩きたくなるような歩行者空間の整備を図る。 ・ 河川・水路、緑地・広場等の自然環境と様々な都市施設が一体となった都市内の快適な空間の整備を図る。 ・ 長野駅周辺では、市の玄関口にふさわしい街並み景観の形成を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人を訪れ、交流する場である広域拠点として、建築物の不燃化や耐震化を進め防災性の向上を図る。 ・ 建築物が密集する地区では、道路などの都市基盤の整備を推進する。 ・ 震災時等に居住者や来街者が避難できる広場や避難所等を充実させるとともに、誰もが安全に避難できるよう避難路のバリアフリー化などを推進する。

【長野駅善光寺口周辺地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 中心市街地として、商業施設・各種都市機能の充実
- ・ まちなか居住の積極的な促進
- ・ 水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備
- ・ 中心市街地の活動を担う道路の整備
- ・ 使いやすい駐車場の整備
- ・ 建築物の不燃化や耐震化による防災性の向上
- ・ 震災時等に居住者や来街者が避難できる広場や避難所等の充実

2 善光寺周辺地域（第1地区・第2地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

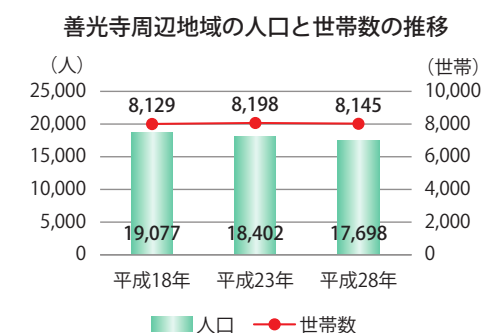
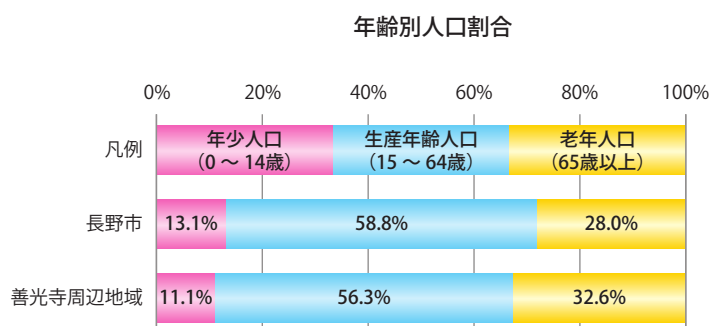
善光寺を中心に門前町として発展してきた地域である。住宅を主体として商業の集積や歴史的、文化的資源が多く存在する。

ひまわり公園の一带では、国の合同庁舎など官公庁施設の集積があり、中央消防署が新たに移転された。

善光寺に隣接する城山公園には美術館などが立地し、文化・芸術・レクリエーションの拠点となっている。

善光寺の背後の丘陵地では、多くの住宅団地が形成されている。

居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、年少人口の割合は比較的低く、老年人口の割合は比較的高い。世帯数は、ほぼ横ばいである。



住民基本台帳から作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

拠点の形成・都市機能

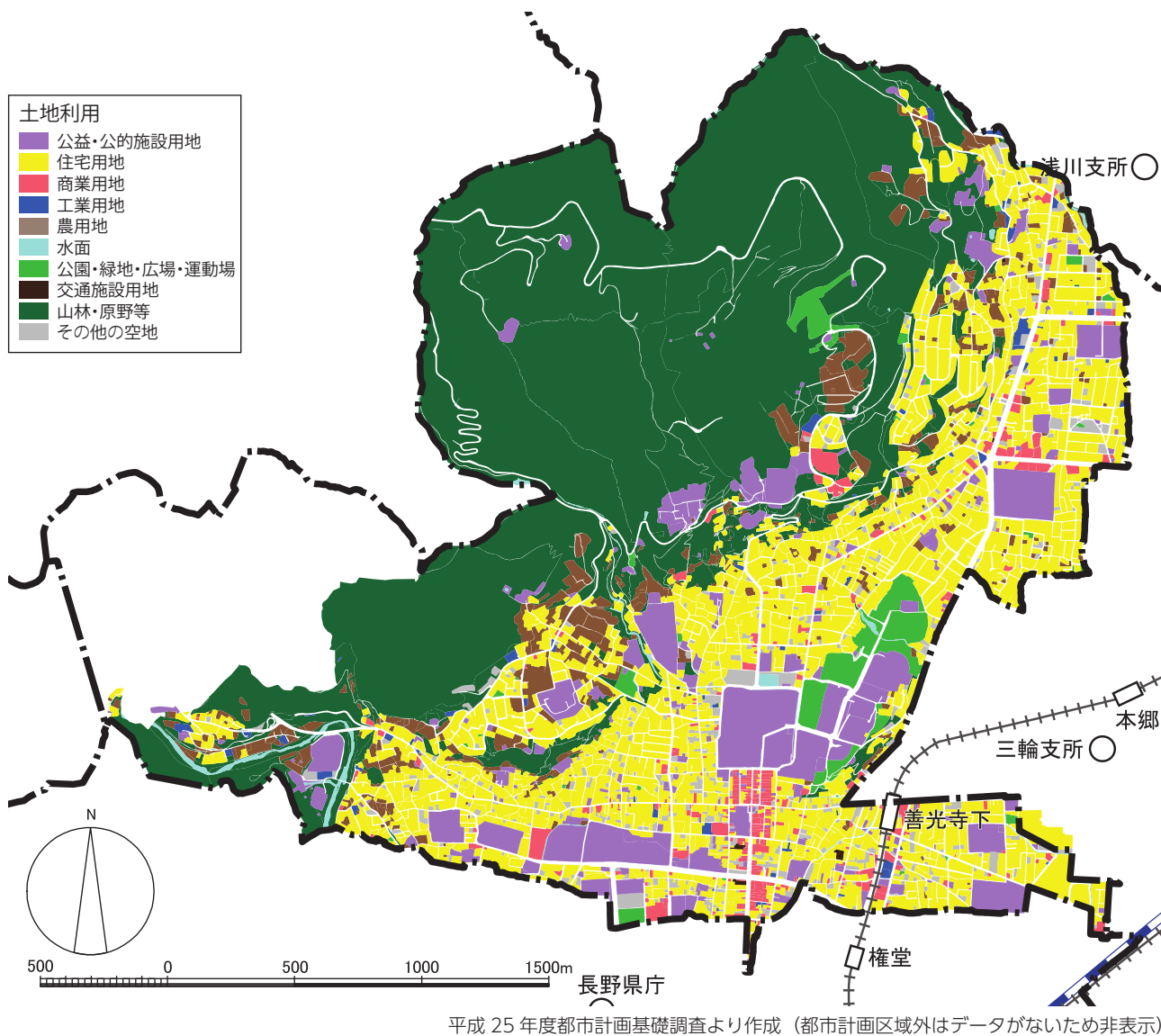
- ・善光寺は、年間約650万人が訪れる県内有数の観光地であるが、観光客等は善光寺とその周辺に集中していることから、善光寺表参道としての中央通りや城山公園など周辺への回遊性の拡大が求められている。
- ・集積された官公庁施設の中には、今後、老朽化による更新が想定される施設がある。

課題

- ▶ 善光寺を中心とした観光・交流の拠点として、広域的な集客に対応した都市空間の整備と周辺施設との連携を確保することにより、回遊性の向上を図る必要がある。
- ▶ 官公庁施設の円滑な更新により、県都としての行政機能の維持と併せて、施設の集約化等により生じる公的不動産を活用したまちづくりを積極的に推進する必要がある。

土地利用

- ・大門地区をはじめとして、地域内には、観光的商業機能が多数立地している。
- ・古くからの住宅地が多く、居住人口の減少が見られる。
- ・空き家、空き店舗など低・未利用なストックが地域内に多く存在する。
- ・市街地や善光寺の背後地は、緑豊かな山すその丘陵地が広がっている。



課題

- ▶ 歴史・文化と自然を活かした商業・観光や住宅などへの土地利用の誘導が必要である。
- ▶ 居住者の高齢化や都市の空洞化等への対応として、まちなか居住地の整備による複合的な土地利用の誘導が必要である。
- ▶ 都市基盤が整った市街地であることから、ストックの有効な活用によるまちの活性化が求められる。

道路・交通

- ・地域内は狭い道路が多く、幹線道路の整備が進んでいないため、バスや通過交通が地域内の道路に入り込んでいる。

課題

- ▶歴史・文化を活かした回遊性の高い歩行者空間の整備が必要である。
- ▶門前町としての来街者の利便性と回遊性を確保するため、集約された拠点的な駐車場が必要である。
- ▶県内有数の観光地として必要な道路や公共交通の整備と、バリアフリーに配慮した街づくりが必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・城山公園一帯は文化・芸術・レクリエーションゾーンとして公園、動物園、美術館等が立地し、市民の憩いの場である。
- ・大峰山一帯は山林や緑地等の貴重な自然環境が市街地近郊に残されている。
- ・善光寺周辺は歴史・文化を活かした門前町としての街並みが形成されている。
- ・市街地には水路等があるが、多くが暗渠化されている。

課題

- ▶緑地などの都市の自然や景観の保全が必要である。
- ▶災害時の安全性の確保や快適な都市環境性の形成のため公園やオープンスペース*の整備が必要である。
- ▶歴史・文化を活かした観光・商業地としての街並み景観の形成が必要である。
- ▶水路を活かした潤いのある都市空間の形成が必要である。

防災・安全

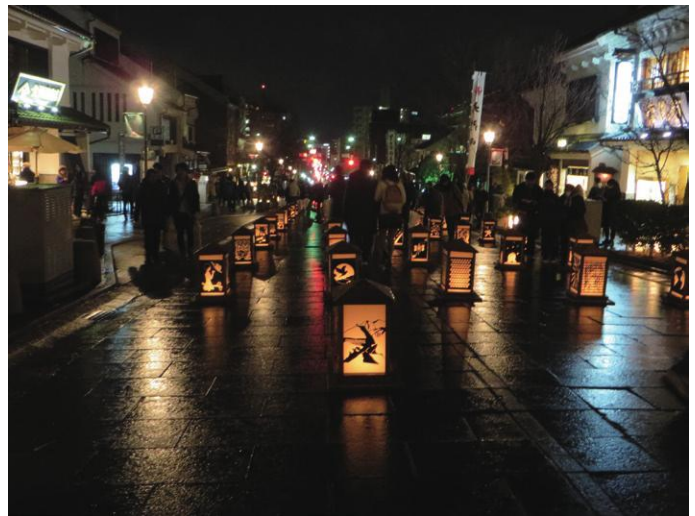
- ・善光寺周辺の住宅地には、老朽化した木造の建築物が密集する地区が見られる。
- ・山すその丘陵地の一部では、土砂災害等の危険性がある区域での開発が見られる。

課題

- ▶老朽化した木造の建築物が密集する地区では、建築物の不燃化や耐震化が必要である。
- ▶安全で緑豊かな住宅地として、防災性の確保が必要である。



城山公園ふれあい広場壁泉から地附山展望



長野灯明まつり（中央通り）

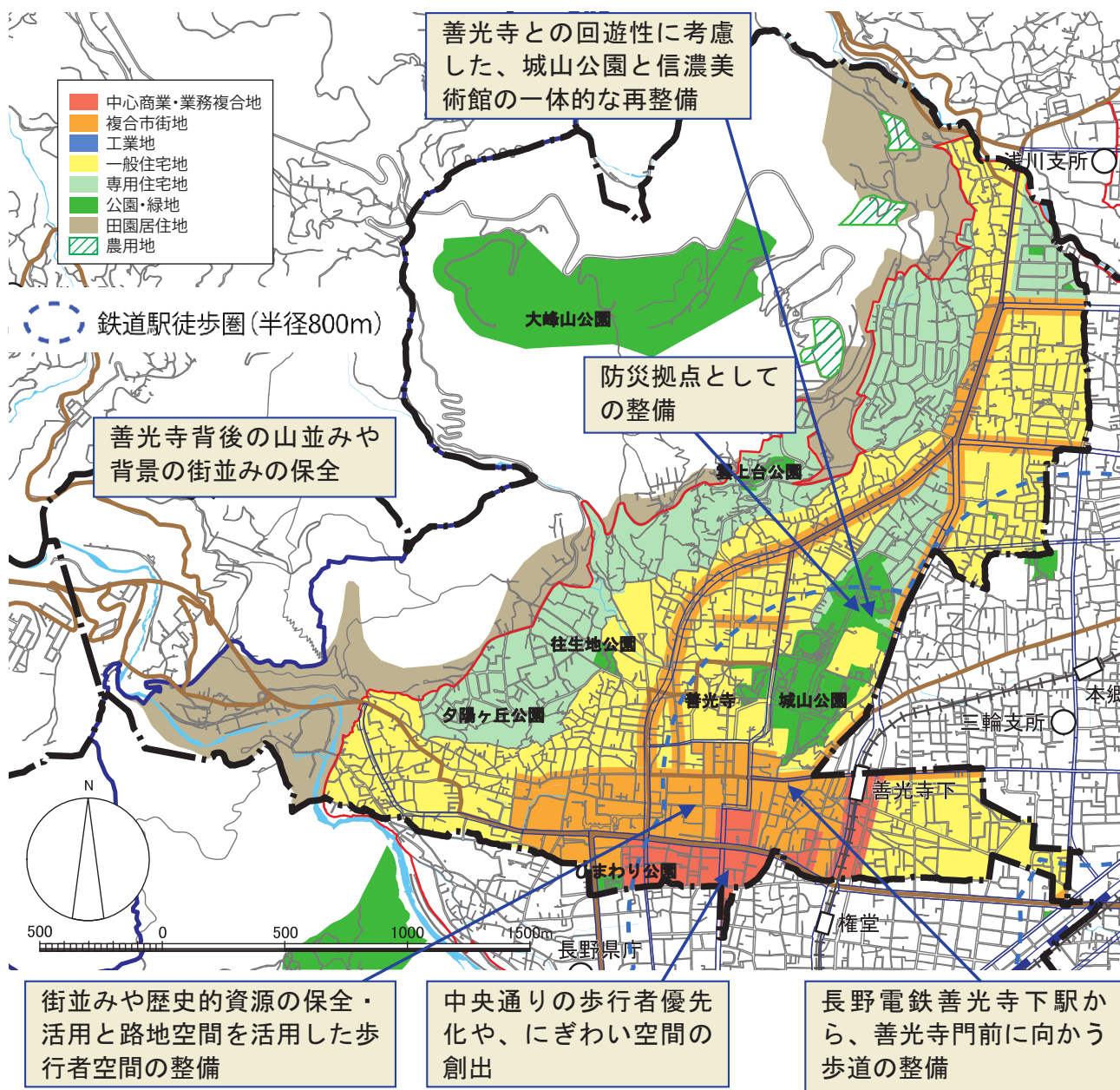


善光寺周辺の街並み

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	善光寺に代表される歴史的、文化的資産を大切に、その周辺の施設や環境を活かした、歴史が感じられる街並みの形成を目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺の門前町として発展してきた地域の特性を活かし、歴史を伝える建物の保存や文化の継承とともに、歴史が感じられるまちづくりを進め、参拝者や観光客など多くの人々が訪れ交流する拠点の形成を図る。 ・城山公園一帯では、都市の貴重な緑地空間の保全を図るとともに、文化・芸術の拠点性を高め、広域的な文化・芸術・レクリエーション・防災等の機能が一体となった地域形成を進める。 ・立地適正化計画による都市機能誘導区域を定め、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を促進する。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺周辺の歴史的風致や都市の貴重な緑地空間に配慮し、戸建て住宅を中心に良好な景観や住環境向上のため、善光寺・城山らしい街並みづくりについて、風致地区*制度等を活用して、きめ細かな街づくりを推進する。 ・市街地の背景となる山すその丘陵地では、緑豊かで静かな住環境を維持するとともに、災害に強い住宅地づくりを図る。 ・空き家などを活用したリノベーション*まちづくりの推進や、公的不動産の活用による都市機能の誘導により拠点性を高める。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺を訪れる観光客が散策したくなるような回遊性の高い歩行者空間の形成を図る。 ・観光地としての利便性の向上を図るとともに、地域の生活を支える公共交通網の整備と、善光寺周辺の歩行者道や自転車道のネットワーク化を推進する。 ・善光寺周辺の住宅地では、安全性や快適性を確保するため、生活道路の整備を推進する。 ・歴史的景観に配慮し、集約化した利便性の高い駐車場の整備を官民協働で図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺一帯に残された歴史的街並みや、寺社、建築物、水路、路地等の資源を保存し、周辺の修景も含めた街並みの整備を図るとともに、路地空間等を活かした歩行者空間の整備を推進する。 ・善光寺背後の街並みや山並みを保全し、善光寺の背景となる景観の保全を図る。 ・城山公園一帯の自然環境を活かすとともに、文化・芸術・レクリエーションの機能を高める施設の再整備を図る。 ・水路や路地空間を活かし、歩きたくなるような歩行者空間の整備を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の建築物が密集する地区では、不燃化や耐震化を進めるとともに、避難路としての道路などの都市基盤の整備を推進する。 ・災害に強い地域づくりを進め、広域避難場所としての城山公園の防災機能強化を図る。

【善光寺周辺地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 善光寺一帯に残された歴史的街並みや歴史的資源の保全・活用
- ・ 景観に配慮した低層の都市型住宅地の整備
- ・ 住宅地での安全性や快適性に配慮した生活道路の整備
- ・ きめ細やかな街づくりの推進（風致地区制度、街なみ環境整備事業*による住民協定、伝統的建造物群保存地区*の検討）
- ・ 木造の建築物が密集する地区での不燃化や耐震化、道路などの都市基盤の整備
- ・ 水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備

3 芹田・安茂里地域（芹田地区・安茂里地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

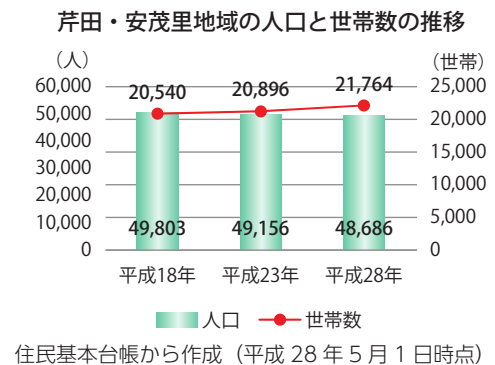
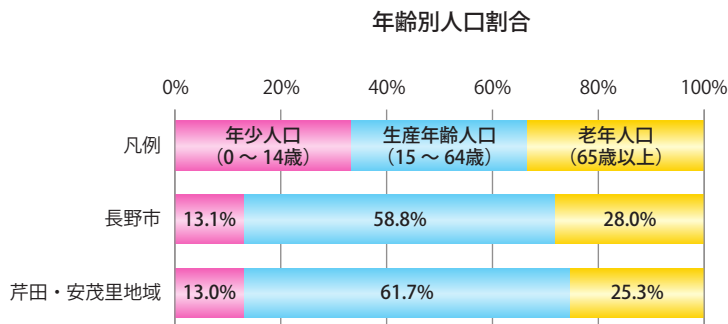
地域特性

長野駅の南側に広がり犀川までの芹田地区と裾花川を隔てた西側の安茂里地区は、中心市街地に近く住宅が多い地域である。

芹田地区の若里では、長野赤十字病院などの基幹的な総合病院や若里市民文化ホール、県立長野図書館が立地するなど広域的な公共施設等の集積が見られるほか、犀川沿いでは、事業所等のまとまった土地利用が見られる。安茂里地区では、東は裾花川、南は犀川、北は山すそに囲まれ、山林、原野が多い一方、交通の便も良いことから、北国街道沿いを中心に住宅地の形成が進んだ地区である。



居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、生産年齢人口の割合は比較的高く、老年人口の割合は比較的低い。世帯数は、緩やかな増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

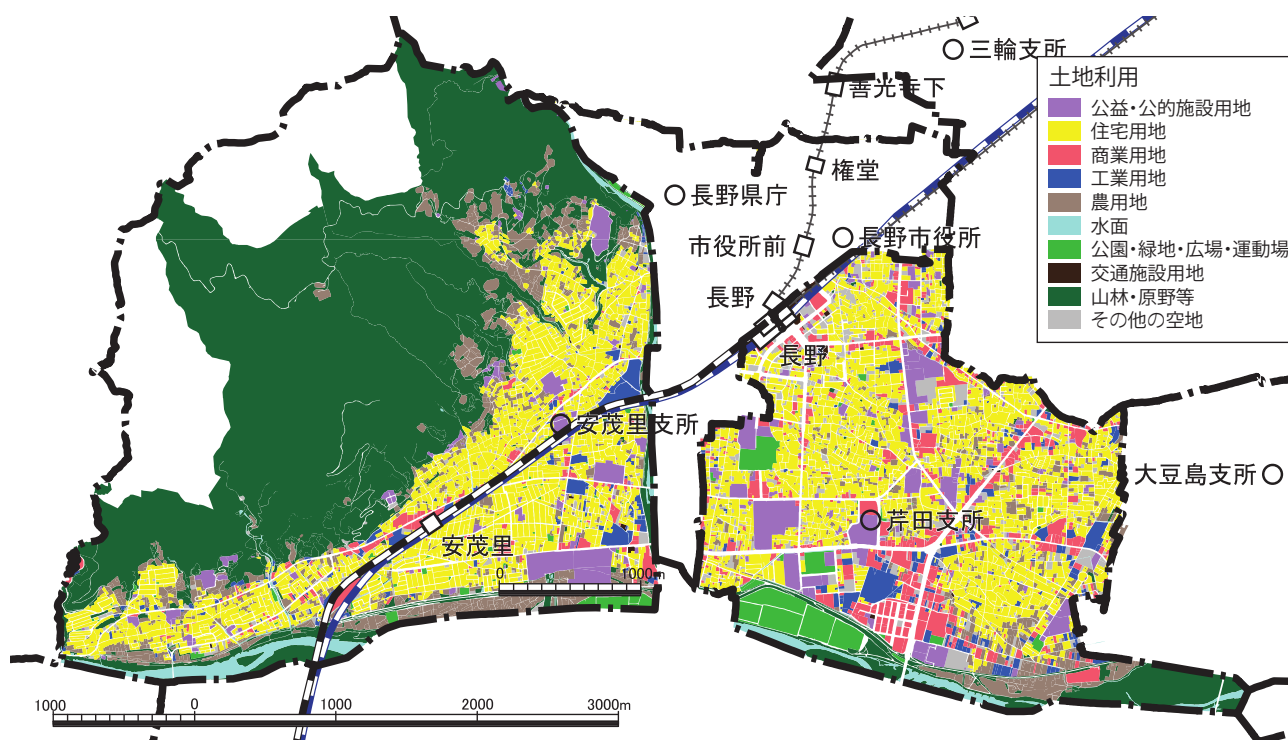
- ・若里公園周辺は、県民文化会館や図書館等が立地した文化ゾーンとなっている。
- ・長野赤十字病院など基幹的な総合病院が立地し、医療の拠点となっている。
- ・ビッグハットをはじめとするコンベンション*施設等が一带に立地している。
- ・信州大学工学部などの研究・教育の拠点が立地している。
- ・安茂里駅周辺や国道19号沿いには、日常生活の維持に必要な生活利便施設等が立地している。

課題

- ▶ 既存施設の集積を活かして、技術や文化等の広域的な交流を育む拠点の形成の推進と、それを支援する施設の充実や連携が必要である。
- ▶ 長野駅へのアクセスの良さを活かした都市基盤の整備や、コンベンション施設におけるイベントやコンサートなどの開催により、地域の魅力発信や集客につなげる必要がある。
- ▶ 安茂里地区は、西部山間地域や北部山間地域と中心市街地を結ぶ交通アクセス機能の向上が必要である。

土地利用

- ・長野駅東口地区は、土地区画整理事業の進展とともに、駅前には商業等の集積が進みつつある。
- ・幹線道路沿いや犀川に面した地区では、公共施設、事業所、商業施設等のある程度広い敷地での土地利用が見られる。
- ・住宅地としての土地利用が多い。
- ・安茂里地区の裾花川沿いでは、国内有数の大規模な食品工場が立地している。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成 (都市計画区域外はデータがないため非表示)

課題

- ▶長野駅東口地区では、本市の新たな顔としての都市空間の整備による活力の形成が必要である。
- ▶長野駅に近接している立地を活かした、交通や多様な施設の集積などの都市機能の向上が必要である。
- ▶公園や歩道の整備、幹線道路のネットワーク化等、都市基盤の充実による居住環境の向上が必要である。

道路・交通

- ・長野駅東口区画整理事業地以外は、面的な都市基盤の整備がされずに市街化した地域である。
- ・中心市街地に近く通過交通も多いが、幹線道路の整備が不十分である。
- ・生活道路が狭隘のため、土地利用が活性化しない区域がある。

課題

- ▶環状道路等の幹線道路の整備・充実が必要である。
- ▶生活道路等の改良や、道路基盤の不足している地区での整備の推進が必要である。
- ▶安茂里駅のバリアフリー化やアクセス性の向上、バス等の公共交通による地域内の移動手段の確保などの利便性の向上が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・犀川の北側には大規模な緑地が広がり、市民のスポーツ・レクリエーションの場として利用されている。
- ・市街地には水路等があるが、多くが暗渠化されている。
- ・中心市街地に近接して、旭山や裾花川などの良好な自然景観が存在する。

課題

- ▶豊かな自然環境の保全や多くの文化施設の活用により、快適な都市環境の向上を図る。
- ▶水路を活かした潤いのある都市空間の形成が必要である。

防災・安全

- ・犀川や裾花川の沿川地域は水害の被害を受けやすい。
- ・安茂里地区では山すそに市街地が隣接しており、土砂災害の恐れのある区域もある。

課題

- ▶水害や土砂災害に強い地域とするため、防災施設の整備や防災情報の提供を進める。
- ▶生活道路の改良による住宅地での防災性の向上が必要である。



長野市多目的スポーツアリーナ ビッグハット



旭山のカタクリ



若里公園 ホクト文化ホールと飯縄山



長野えびす講の花火

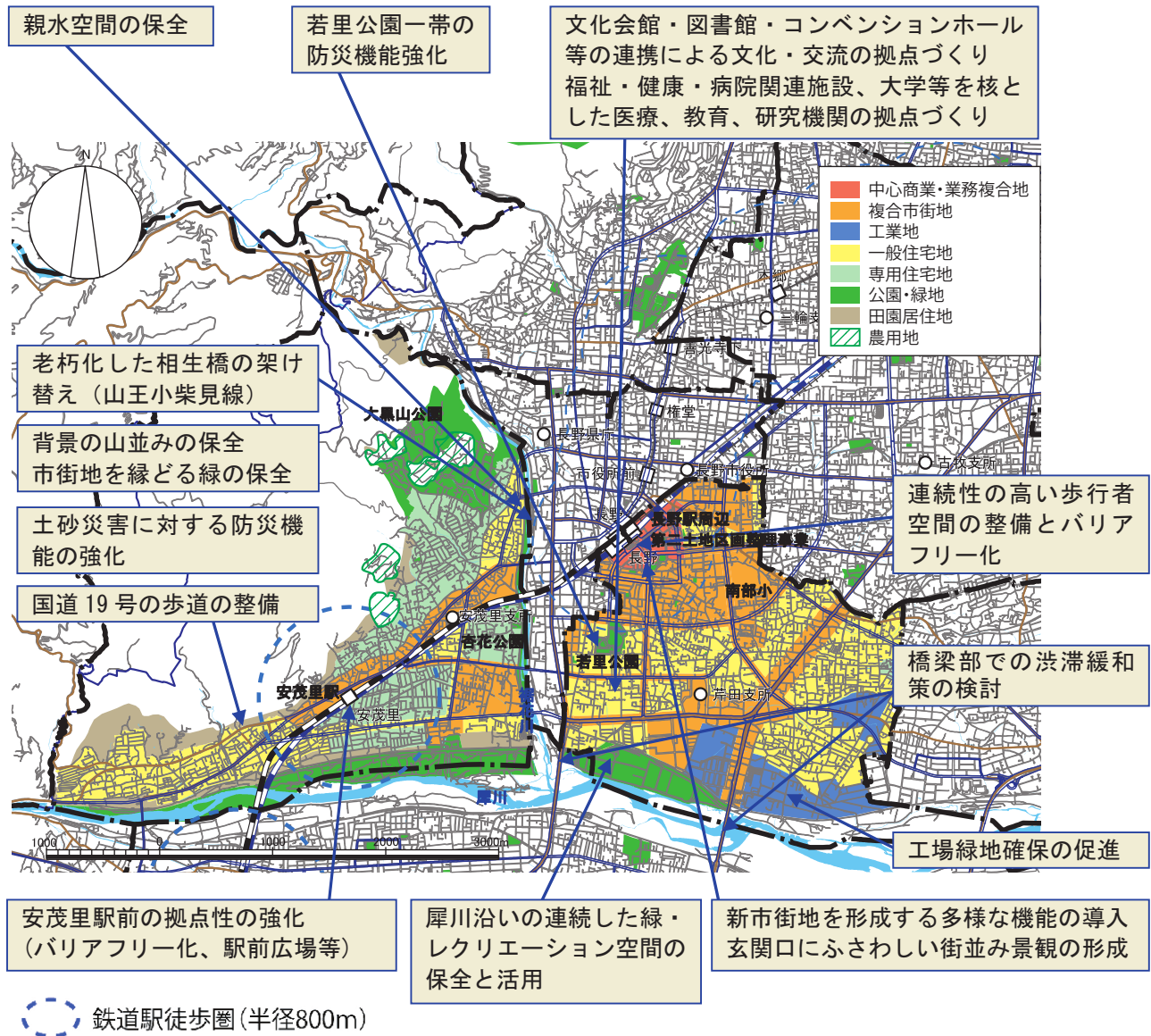
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	<p>学術・文化・産業等の機能集積を活かし、産学官の連携*や交流が活発に展開される拠点の形成と都市的利便性の高い良好な住宅地の形成を目指す。</p>
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・県民文化会館、県立長野図書館、ビッグハット、若里市民文化ホール等のコンベンション施設や若里公園などの都市機能の集積を活かし、長野駅善光寺口周辺地域と併せて、長野の都市的魅力を高めるとともに、これらの機能の連携を強化し、文化・交流の広域拠点の形成を図る。 ・長野赤十字病院をはじめとする福祉・健康・医療関連施設や信州大学工学部、長野市ものづくり支援センター等と連携し、医療、教育、研究機関の拠点として、超高齢社会を支える医療・福祉や生涯学習に対応した、安心と生きがいを感じられる地域づくりを進める。 ・市街地の輪郭を形成する犀川・裾花川を保全し、それらの自然環境と調和した都市空間の形成を図る。 ・芹田地区では、立地適正化計画における都市機能誘導区域を指定し、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を促進する。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・若里、栗田、安茂里、稲葉地区などの住宅地では、中心市街地と連絡する利便性の高い住居系の土地利用を誘導し、公園や河川緑地の整備、道路や住宅地の緑化を進め、潤いを感じられる良好な住環境の形成を図る。 ・東通りから国道117号周辺に至る地区や安茂里の国道19号周辺地区では、住環境に配慮しつつ、中心市街地に隣接した立地を活かし、文化・交流機能や住宅・商業・業務などの機能が複合した土地利用を誘導する。 ・国道117号、国道18号等の幹線道路沿いは、周辺住宅地の生活利便性の向上に対応した商業・業務機能の適切な土地利用を誘導する。 ・犀川沿いの川合新田などの工業地は、敷地内の緑化を進め、環境に配慮した潤いを感じられる土地利用を図る。 ・長野駅東口地区では、土地区画整理事業を推進し、新たな商業・業務機能の集積と良質な住宅地の整備を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地への通過交通の流入を抑え、中心市街地内の交通渋滞を緩和する幹線道路の整備や、既存住宅地内の生活道路の改良を図る。 ・橋の周辺部での渋滞解消や犀川を挟んだ南北間の連携強化方策の検討を行う。 ・老朽化した相生橋の架け替えと併せて、歩行者空間の確保や、円滑な車両の通行を図る（山王小柴見線）。 ・安茂里駅では、周辺住宅地の交通の拠点としての機能の強化を図る。 ・住宅地等から長野駅や長野赤十字病院へのアクセスを確保するための公共交通の利便性を向上させる。 ・長野駅東口の土地区画整理事業を推進するとともに、地域内外の連絡を強化するため、駅南幹線、七瀬居町線、栗田屋島線等の市街地内幹線道路の整備を図る。 ・安茂里地区では、国道19号の歩道の整備・改良を進める。 ・市街地内の回遊性向上を目指し、自転車レーン等のネットワーク化など自転車利用環境の整備を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・水路や路地空間を活かし、歩きたくなるような歩行者空間の整備を図る。 ・若里公園を緑の拠点やオープンスペースとして、地域の環境保全に活用する。 ・犀川・裾花川沿いでは、市民の憩いの場として整備された河川緑地等の保全を図り、サイクリングロードや緑・レクリエーション空間として河川敷きの活用と自然環境の保全を図る。 ・犀川・裾花川沿いの工業地では、敷地内の緑化を図り、緑豊かな空間づくりを進める。

防災都市づくり方針

- ・既存住宅地の生活道路の改良等により地域全体の防災能力の強化を図る。
- ・若里公園一帯は、防災の拠点としての機能強化を図るとともに、防災能力の強化のため周辺道路の整備を推進する。
- ・安茂里地区では、山すそに市街地が近接しており、土砂災害に対する防災機能の強化を図る。

【芹田・安茂里地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備
- ・通過交通の流入を抑え、中心市街地内の交通渋滞を緩和するための幹線道路の整備、中心市街地への交通手段として自転車利用の促進
- ・既存住宅地の生活道路の整備等による防災機能の強化

4 東部地域（古牧地区・三輪地区・吉田地区）

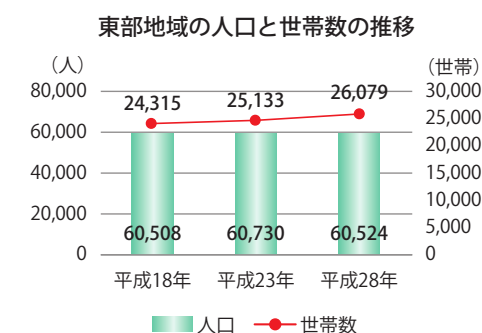
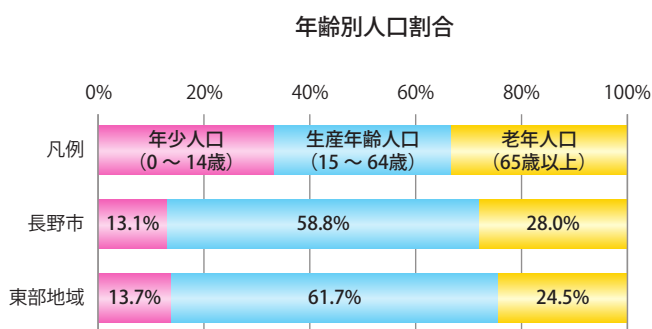
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

中心市街地の東部に位置し、地域の北端は浅川である。古くから市街地が形成されていた地域で、市街地密度も高く、住宅やその他の用途の混在した地域である。

古牧地区では、国道18号・国道19号などの幹線道路沿いに商業施設が集積している。三輪地区では、住宅地としての土地利用が大半であるが、高等学校や大学・専門学校などの教育施設も多く立地している。吉田地区では、北長野駅周辺での市街地再開発事業等により拠点的な街づくりが進んでいる。

居住人口は、ほぼ横ばいであり、生産年齢人口の割合は比較的高く、老年人口の割合は比較的低い。世帯数は、緩やかな増加傾向にある。



住民基本台帳から作成（平成28年5月1日時点）

現況と課題

拠点の形成・都市機能

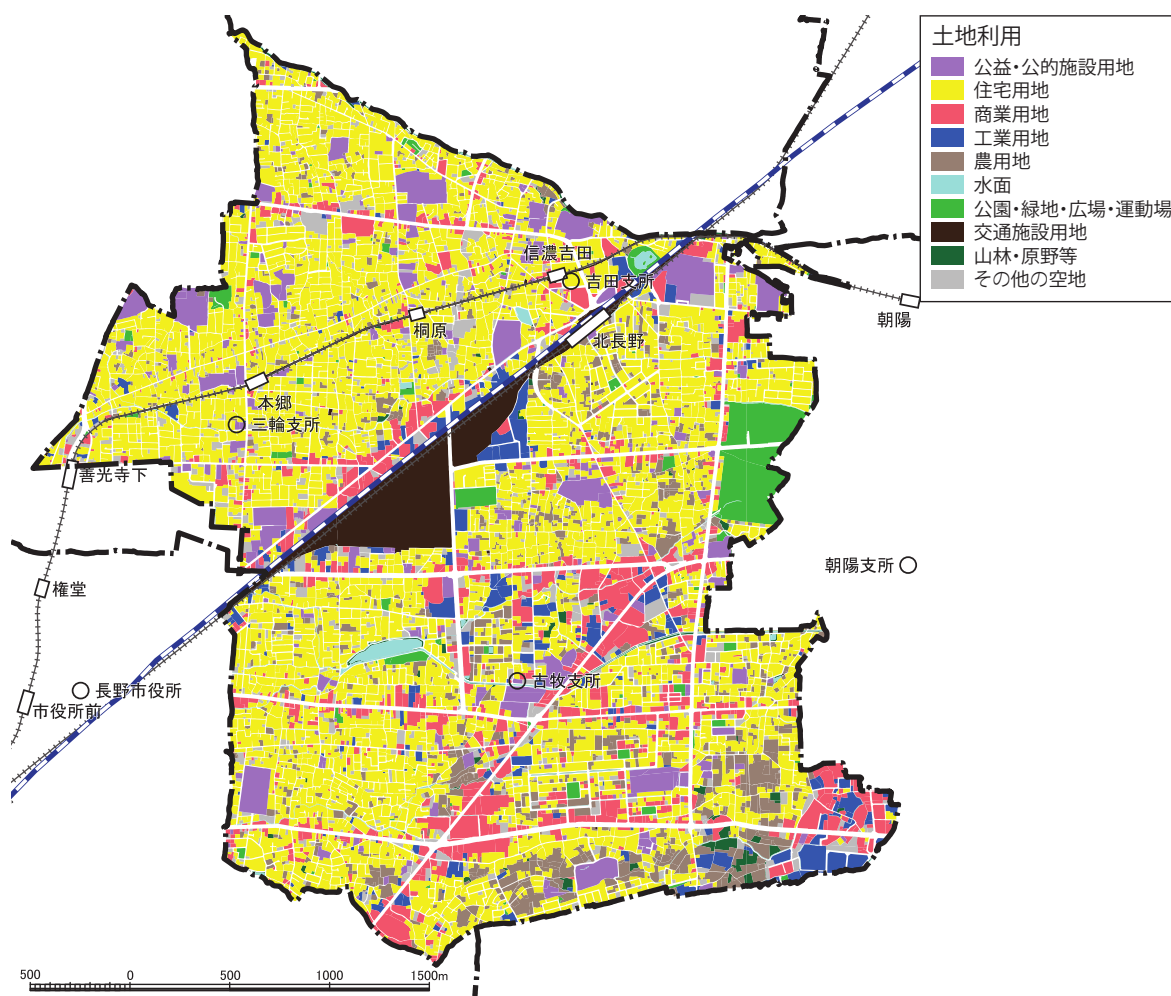
- ・北長野駅周辺では、市街地再開発事業等により拠点性が高まったが、道路や駅前広場などの交通施設の整備が不十分な地区もある。

課題

- ▶北長野駅周辺は、市北部エリアの中心として、都市機能の集積と併せて、駅前広場などの都市基盤の整備や周辺の道路の整備等による、拠点性の向上が必要である。
- ▶北長野駅と長野電鉄線の信濃吉田駅は、近接しており、相互の乗り換えや、他の交通機関への乗り換える機能など地域拠点としての公共交通の利便性の向上が求められる。

土地利用

- ・ 駅周辺や幹線道路沿道等を除き、低層である程度区画の整った住宅地が形成されている。
- ・ 都市基盤が不十分な住宅地や工場が混在している地区も残っている。
- ・ JR 線・しなの鉄道線沿いや SBC 通り、北長野通り沿いには、工場、事業所、商業施設等が立地している。
- ・ 住宅地としての土地利用が多い。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

課題

- ▶ 市北部エリアの地域拠点として、北長野駅周辺での商業等の集積を誘導し、駅周辺の立地条件を活かした土地の高度利用が必要である。
- ▶ 住宅地や工場が混在する地域では、既存産業の機能を確保しながらオープンスペースの緑化等を進め、市街地の環境の整備が必要である。
- ▶ 住宅用地が多いことから、今後空き家の発生が予想されるため、適切な土地利用の更新が必要である。

道路・交通

- ・北長野駅周辺地区の一部等を除くと、市街地再開発事業等による面的な基盤整備がされていない。
- ・東北ぐるりん号（循環バス*）の運行により、地域内循環の利便性が高まった。
- ・古牧地区では、市街地の南北を結ぶ補助幹線道路が未整備で、住宅地への通過交通の流入が問題である。また、地区内の広域幹線道路の交通量は非常に多く、渋滞が日常化している箇所がある。

課題

- ▶ 幹線道路の整備・充実を図るとともに、補助幹線道路や生活道路等の整備が必要である。
- ▶ 鉄道駅へのアクセス性の向上や、バス等の公共交通による地域内の移動手段の確保が必要である。
- ▶ 駅前広場の整備や鉄道駅やバス停等の交通施設のバリアフリー化などにより、公共交通の利便性の向上が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・長野運動公園のような大規模な公園はあるが、住宅地内にはオープンスペースや緑地が少なく、市民が日常的に憩い、交流できる街区公園や近隣公園等が不足している。

課題

- ▶ オープンスペースや緑地の確保により、市街地の住環境の整備が必要である。
- ▶ 市街地内にある農地の緑地や空地としての機能を再評価し、都市農地などとして活用を図るほか、計画的な公園の整備が必要である。

防災・安全

- ・北国街道沿いは、かつての宿場町のため、比較的建築物が密集する地区であり、老朽化した木造建築物等の防災上問題のある建物が連担している。

課題

- ▶ 防災性を考慮した道路基盤の整備とともに、身近な公園・空地の整備や、建物の不燃化等が必要である。
- ▶ 都市公園*の整備を推進し、避難地の確保が必要である。



長野運動公園総合市民プール アクアウイング



桐原牧神社のわら駒



吉田の大イチョウ

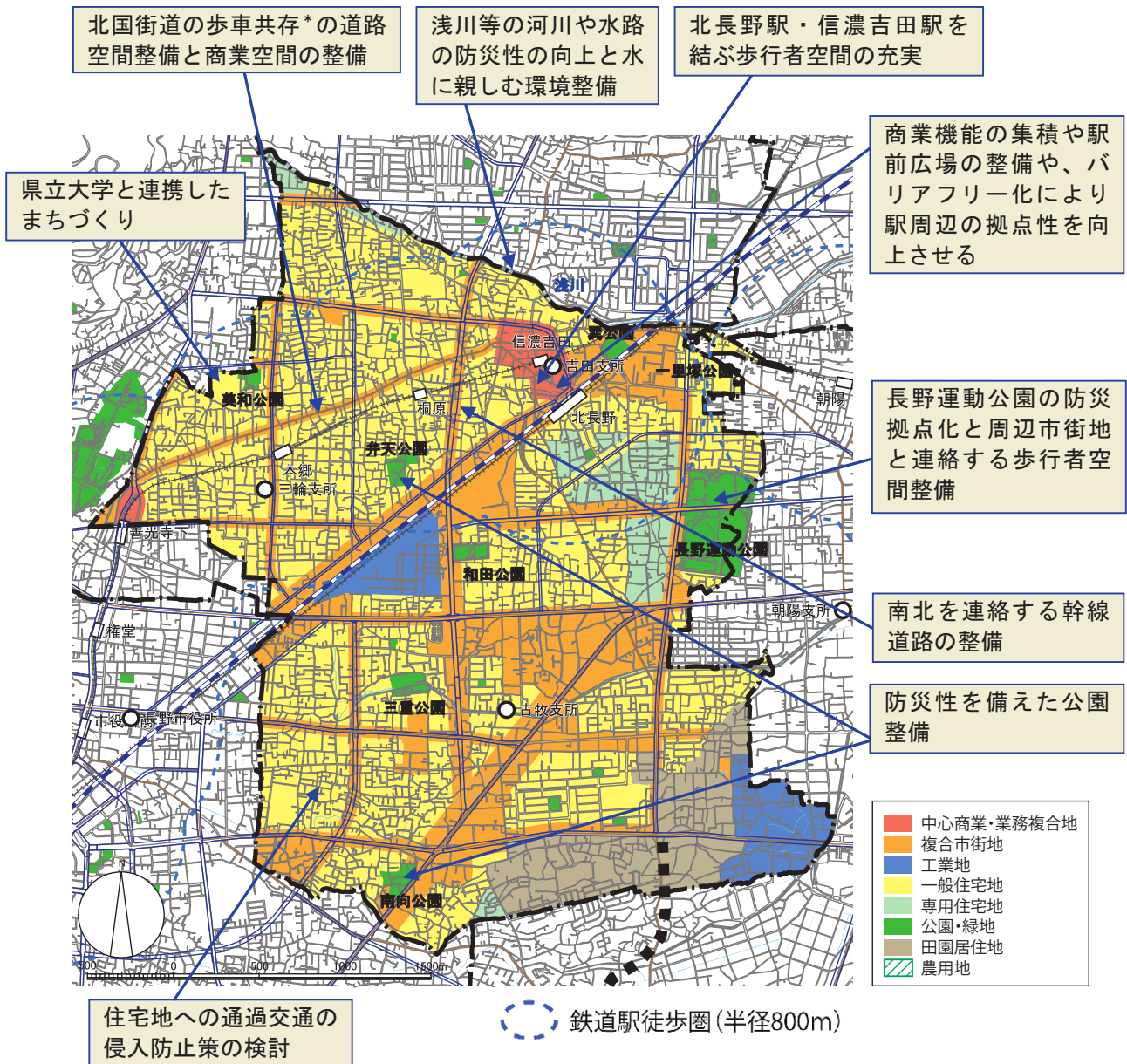


三輪地区 本郷駅周辺の街並み

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	市北部エリアの地域拠点として、北長野駅周辺の拠点性の強化と、住宅が主体の既存市街地としての地域特性に配慮し、歩いて暮らせる街づくりの核となる地区レベルでの都市基盤の整備や住環境の整備を進める。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・北長野駅・信濃吉田駅周辺は、行政機関や商業・業務施設など多様な機能の集積を活用し、公共交通の結節点との連携を強化することで、歩いて暮らせる街の拠点の形成を図る。 ・立地適正化計画において都市機能誘導区域を指定し、地域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を促進する。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・北長野駅・信濃吉田駅周辺は、市街地再開発事業等を活用した商業・業務・サービス機能の更なる集積と、都市型住宅を中心とした居住機能の向上を図る。 ・空き家などを活用したリノベーションまちづくりの推進などにより、適切な土地利用の更新を図る。 ・東豊線等の幹線道路沿いは、商業・業務・交流機能等の適切な集積を誘導するとともに、沿道環境や景観に配慮された建物の立地を誘導する。 ・北国街道沿いなどの地区では、地域に親しまれてきた街並みを尊重し、近隣の生活を支える商業・サービス機能と居住機能が複合した土地利用を誘導する。また、地域拠点との連携や機能の分担を図る。 ・防災能力を備えた良好な住宅地の形成を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・北長野駅・信濃吉田駅の一帯は、駅前広場の整備や横断地下道の再整備などによる交通機関の乗り換えの利便性の向上と併せて、安全で快適な歩行者空間の整備を進める。 ・広域ネットワークを担い、地域内の南北方向を結ぶ幹線道路である高田若槻線の整備を進める。 ・住宅地等から駅や病院等へのアクセスの向上のため、地域内循環交通の利便性を向上させる。 ・鉄道駅のバリアフリー化などにより、公共交通の利便性の向上を進める。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の幹線道路沿いは、街路樹等の充実を図り、緑のネットワークを推進する。 ・浅川をはじめとする地域を流れる河川や水路について、身近な自然や潤いの場として親水空間の整備や維持・保全を図る。 ・長野運動公園は、スポーツ・レクリエーションの拠点として充実を図るとともに、防災機能の整備を推進する。 ・地域の住民の憩いの空間としての公園の整備を推進する。(南向公園、弁天公園)。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・浅川をはじめ、地域を流れる河川や水路について、水害から周辺の住宅地を守るための整備を推進する。 ・長野運動公園は、防災の拠点として整備を推進し、地域の周辺の住宅地の安全性を高める。 ・一般住宅地におけるオープンスペースの確保など防災性の向上を図る。

【東部地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 地域に点在する公園等は、身近な緑やオープンスペースとしての整備を進め、道路空間の緑化等による緑のネットワークの形成
- ・ 生活道路の改良や、オープンスペースの整備による良好な住宅地の形成